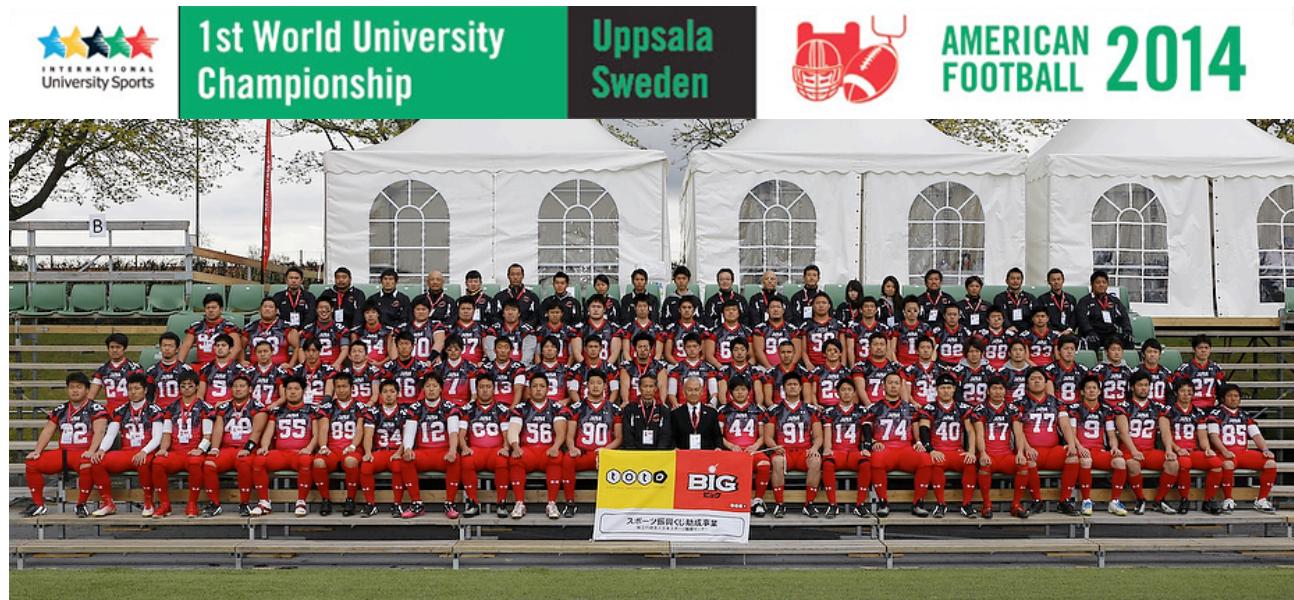




公益社団法人
日本アメリカンフットボール協会

第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会

報告書



第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会 (報告)

国際大学スポーツ連盟(FISU:Fédération Internationale du Sport Universitaire)が主催する「第1回大学世界選手権大会」は、2014年5月1日～5月13日、スウェーデン王国ウプサラ市で開催されました。

日本代表チームは、第1試合のフィンランド代表を84対0、第2試合の代表を中国代表54対0、第3試合のスウェーデン代表を57対0で破って決勝に進出しましたが、メキシコ代表に6対14で敗れ念願の優勝は果たせませんでした。結果、日本代表チームは銀メダルを獲得しました。

【大学日本代表チームの試合結果】

第1試合(5月4日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	28	28	14	14	84
フィンランド代表	0	0	0	0	0

第2試合(5月6日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	28	9	3	14	54
中国代表	0	0	0	0	0

第3試合(5月8日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	24	21	0	12	57
スウェーデン代表	0	0	0	0	0

第4試合(5月11日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	0	6	0	6
メキシコ代表	0	7	0	7	14

カレッジ日本代表 水野彌一監督(追手門学院アメリカンフットボール部総監督)

【大会を振り返って】

最初の3試合で選手もコーチもだれてしまうと思ったが、そういうこともなく最後までいい努力をしてくれた。

そういう意味で、全員を褒めてあげたい。今回のチームは本当に良いチームだった。日本のチーム作りの仕方は、今回参加したチームには良い見本になったと思う。

日本にとって、日本中の選手やコーチが集まり優秀なコーチの下でチーム作りを学ぶということは、参加した選手たちにとって良い勉強になったと思う。これは日本の財産です。後世につなげていってほしい。

カレッジ日本代表 主将 OL服部真明(立命館大学)

【大会を振り返って】

これまでこれほど長期間の遠征を経験したことがなかったので正直しんどいところが多かったですけど、その分みんなといふ時間が長かったし、他大学の人と本気でフットボールすることで今までにない考え方を持つことができ、刺激になりました。今までシニアの代表を考えたことはなかったんですけど、成長したらチャレンジしたい気持ちが湧いてきました。

今後のことを考えると今回はいい経験でしたが、負けたことが一番大きいので現時点では簡単に良い経験だったと言えないです。純粋に悔しいです。負けたら悔しいということを改めて思い出しました。



GAME REPORT

【第1試合】

—初戦のフィンランド戦に 84 対 0 で勝利！—

現地時間 5 月 4 日（日）※日本時間同日、スウェーデン王国ウプサラ市のオスタエンゲン IP で開催されている『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表がフィンランド代表と対戦し、84 対 0 のスコアで勝利しました。

なお、今大会の主催 FISU が選出したこの試合のカレッジ日本代表ゲーム MVP には、ラン 9 回で 200 ヤード、4TD を記録した RB 井上が受賞しました。

現地時間 5 月 4 日（日） 13 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	28	28	14	14	84
フィンランド代表	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

日本代表が前半から圧倒した。第 1Q 残り 10 分 19 秒、自陣 45 ヤードから始まった日本代表の最初のドライブ。RB 井上 周（立命館大学）がランで 19 ヤードを進めると、次のプレイで WR 高崎 慎（関西大学）が 36 ヤードのタッチダウンラン。わずか 2 プレイで、日本代表が率先良く 7 点を先制する。

続くフィンランドの攻撃をスリーアンドアウトで止めた日本代表は、敵陣 45 ヤードから始まった攻撃では、4 つのラン攻撃でゴール前 5 ヤードまで前進。最後は、井上がエンドゾーン内に走り込み 7 点を追加。すると、さらに日本は、次の攻撃で井上が 60 ヤードの独走タッチダウンラン、RB 岡部 朋也（京都大学）の 1 ヤードランで第 1Q から 28 点のリードを奪う。

第 2Q に入っても日本の攻撃力は衰えない。第 2Q 最初の相手の攻撃をファンブルリカバーで攻撃権を奪うと、途中出場の QB 岸村 恭吾（関西大学）が WR 鈴木 恵多（立命館大学）へ 15 ヤードのタッチダウンパスをヒット。さらに、第 2Q 残り 9 分 22 秒、自陣 28 ヤードから始まった攻撃では 3 つのランで 3 連続ファーストダウンを奪い、敵陣 29 ヤードへ侵入。すると、QB 岸村から WR 木下 統之（関西大学）へ 29 ヤードのタッチダウンパスが通り、日本代表が 42 対 0 とする。さらに第 2Q 残り 6 分 11 秒に井上の 14 ヤードタッチダウンラン、同残り 2 分 35 秒に RB 高口 和起（日本大学）の 19 ヤードランで 14 点を加え、前半を 56 対 0 で折り返す。

日本は後半に入っても、井上のこの日 4 つ目となるタッチダウン、途中出場した QB 荒木 裕一朗（立命館大学）の 3 タッチダウンパスで 4 つのタッチダウンを追加した。一方のフィンランドは、トータルオフェンスヤードが日本の 621 ヤードに対して 34 ヤード。ファーストダウン更新もわずか 1 回に終わった。

■ 主なスタッツ

得点経過

1st	09:46	JPN	7-0 高崎 慎 36 yd run (佐伯 真太郎 S kick)
	05:46	JPN	14-0 井上 周 5 yd run (佐伯 真太郎 kick)
	04:32	JPN	21-0 井上 周 60 yd run (佐伯 真太郎 S kick)
	01:11	JPN	28-0 岡部 朋也 1 yd run (高口 和起 kick)
2nd	11:44	JPN	35-0 鈴木 恵多 15 yd pass from 岸村 恭吾(高口 和起 kick)
	08:00	JPN	42-0 木下 統之 29 yd pass from 岸村 恭吾(佐伯 真太郎 kick)
	06:11	JPN	49-0 井上 周 14 yd run (佐伯 真太郎 kick)
	02:35	JPN	56-0 高口 和起 19 yd run (佐伯 真太郎 kick)
3rd	10:39	JPN	63-0 井上 周 65 yd run (佐伯 真太郎 kick)
	00:00	JPN	70-0 西村 有斗 40 yd pass from Yuichiro A (佐伯 真太郎 kick)
4th	00:00	JPN	77-0 西村 有斗 20 yd pass from Yuichiro A (佐伯 真太郎 kick)
	00:00	JPN	84-0 鈴木 恵多 26 yd pass from Yuichiro A (佐伯 真太郎 kick)

日本	チーム成績	フィンランド
621	オフェンス総獲得ヤード数	34
231	パス総獲得ヤード数	30
390	ラン総獲得ヤード数	4
24	ファーストダウン回数	1
0	ペナルティ回数／喪失ヤード数	0
09:19	ボール支配時間	38:41

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターフェプト	被サック
岸村 恭吾 (関西大)	3/9	65	2	1	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
井上 周 (立命館)	9	200	4	22.2	65
高口 和起 (日本大)	5	55	1	10.8	19
岸村 恭吾 (関西大)	1	38	0	38	38
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
西村 有斗 (日本大)	3	87	2		40
鈴木 恵多 (立命館)	3	52	2		26
高崎 慎 (関西大)	1	30	0		30
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターフェプト	
加藤 樹 (早稲田)	5.5	0.5	2	0	
林 直輝 (関西大)	4	0	1	0	

■ フィンランド戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

カレッジ日本代表 水野 彌一監督（追手門学院アメリカンフットボール部総監督）

フットボールはサイズとパワーといつてもいいわゆるフィジカルの部分だけでなく、スピードとスキルが非常に重要だということを今日のゲームで示せたと思う。多少のミスがあったけれど、みんなが伸び伸びとできていた。初戦の入り方としては上出来だったと思う。雑なことやいい加減なプレイをすると相手に失礼だから、フィールドに立ったら真剣なプレイをしてほしいと選手には再度言いたい。

カレッジ日本代表 RB 井上 周（立命館大学）

味方のブロックのおかげで走れたり、相手に日本のフットボールを見せられたのが良かったです。フィンランドは、日本では経験できないサイズとパワーがありました。相手がどこであっても、日本のフットボールを見せていきたいです。

— ご案内 —

◆カレッジ日本代表チーム報道用写真

日本アメリカンフットボール協会では、『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』に参戦中のカレッジ日本代表チームの試合や、現地スウェーデン王国ウppsala市での活動の様子の写真を随時ご用意しております。報道用写真として貸し出しをご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

また、現地レポートや写真は、日本代表チーム特設ページ（<http://japan.americanfootball.jp/>）でも随時公開中です。こちらも併せてご活用ください。

◆大会全12試合 LIVE 動画配信

カレッジ日本代表の試合を含めた今大会全10試合の模様は、大会を主管する大会HP内（<http://www.uppsala2014.com/se/results>）において、随時LIVE動画を配信中※英語です。



QB 岸村 恭吾
関西大学



RB 井上 周
立命館大学



日本代表
試合前 整列



GAME REPORT

【第2試合】

－中国を 54 対 0 で下し 2 連勝！－

現地時間 5 月 6 日（火）※日本時間 5 月 7 日（水）、スウェーデン王国ウプサラ市のオスタエンゲン IP で開催されている『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表が中国代表と対戦。

54 対 0 のスコアで勝利し、開幕 2 連勝としました。

なお、今大会の主催 FISU が選出したこの試合のカレッジ日本代表ゲーム MVP には、パントリターン TD のほか、ランでも 3 回 46 ヤード、1TD を記録した RB 高木 棱（京都大学）が選ばれました。

現地時間 5 月 6 日（火） 18 時 30 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	28	9	3	14	54
中国代表	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

コイントスでレシーブを選んだ日本代表は、WR 鈴木 恵多（立命館大学）がいきなり 75 ヤードキックオフリターンのビッグプレイ。幸先よく 7 点を先制する。

次のドライブで中国を相手陣 25 ヤードからのパントに抑えると、このパントを RB 高木 棱（京都大学）が 42 ヤードのパントリターンタッチダウン。さらに、中国陣 15 ヤードから始まった次の相手攻撃、第 1Q 残り 8 分 52 秒サードダウン 15 ヤードで中国がファンブル。これを LB コグラン・ケビン（早稲田大学）がエンドゾーン内でリカバー。

試合開始からわずか 3 分 8 秒、スペシャルチームと守備のみで 21 点のリードを奪う。

第 1Q 残り 1 分 2 秒にも高木の 31 ヤードタッチダウンランで追加点を奪った日本代表。第 2Q にもセイフティと WR 岩松 慶将（日本大学）の 8 ヤードタッチダウンランで 9 点を追加。37 対 0 で前半を折り返す。

日本代表は第 3Q、K 有輪 七海（日本大学）が 38 ヤード FG を成功。第 4Q にも、残り 8 分 45 秒に RB 梅原 駿（関西大学）の 8 ヤードラン、同残り 3 分 33 秒にも FB 荒木 勇人（近畿大学）が 40 ヤードのタッチダウンランを決めた。

なお、日本代表は中国に 1 度も更新させず。トータル喪失ヤードも -35 ヤードに抑える完勝だった。

■ 主なスタッツ

得点経過

1st	11:46	JPN	7-0 鈴木 恵多 75 yd kickoff return (有輪 七海 kick)
	10:00	JPN	14-0 高木 稜 42 yd punt return (有輪 七海 kick)
	08:52	JPN	21-0 コグラン ケビン 14 yd fumble recovery (有輪 七海 kick)
	01:20	JPN	28-0 高木 稜 31 yd run (有輪 七海 kick)
2nd	10:10	JPN	30-0 Team Japan safety
	08:50	JPN	37-0 岩松 慶将 8 yd run (有輪 七海 kick)
3rd	02:47	JPN	40-0 有輪 七海 38 yd field goal
4th	08:45	JPN	47-0 梅原 駿 8 yd run (有輪 七海 kick)
	03:33	JPN	54-0 荒木 勇人 40 yd run (有輪 七海 kick)

日本	チーム成績	中国
227	オフェンス総獲得ヤード数	-36
29	パス総獲得ヤード数	4
198	ラン総獲得ヤード数	-40
9	ファーストダウン回数	0
0	ペナルティ回数／喪失ヤード数	0
13:51	ボール支配時間	34:09

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
小原 祐也 (京都大)	1/4	29	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
高木 稜 (京都大)	3	46	1	15.3	31
荒木 勇人 (近畿大)	2	45	1	22.5	40
梅原 駿 (関西大)	2	38	1	19.0	30
小形 亮介 (明治大)	2	24	0	12.0	17
岩松 慶将 (日本大)	2	22	1	11.0	14
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
岩松 慶将 (日本大)	1	29	0	0	29
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターチェプト	
岩本 卓也 (日本大)	2	0	0	0	0
池永 健人 (関西学院)	2	1	1	0	0
コグラン ケビン (早稲田)	1	0	1	0	0
大関 翔太 (立命館)	1	0	0	0	0
梶原 誠人 (関西学院)	1	0	1	0	0

■ フィンランド戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

カレッジ日本代表 水野 彌一監督（追手門学院アメリカンフットボール部総監督）

（中国は）非常に勇敢にプレイしていたことは確かだった。あれだけ点差が開いてもゲームを諦めずにプレイしていたのは立派だったと思う。今回の日本代表はいいチームに仕上がっている。それはコーチの功績のおかげ。コーチに拍手を送りたい。今日の課題としては、ディフェンスバックがインターセプトをミスしていたのでそれが残念。メキシコ戦ではその辺の出来が試合を決めるかもしれない。 （選手たちには）ビッグプレイをきっちりと決めてもらいたい。

カレッジ日本代表 RB 高木 稜（京都大学）

（中国を）事前にスカウティングして色々と情報を仕入れた上で戦いました。予想以上に気迫のこもったプレイをされて最初はどうなるかと思いましたけど、味方のブロックに助けられて多くのタッチダウンを取ることができました。チームメイトの信頼が一番助かりました。自分がゲーム MVP をもらえるとは思ってはいませんでした。ただ、タッチダウンの本数が多かっただけで、チーム一丸となった結果だと思います。（3日前にスウェーデン到着だったが）、その日のうちにトレーナーの方に調整していただいたので、次の日に動けるようになりました。トレーナーのおかげです。

— ご案内 —

◆カレッジ日本代表チーム報道用写真

日本アメリカンフットボール協会では、『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』に参戦中のカレッジ日本代表チームの試合や、現地スウェーデン王国ウプサラ市での活動の様子の写真を随時ご用意しております。報道用写真として貸し出しをご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

また、現地レポートや写真は、日本代表チーム特設ページ（<http://japan.americanfootball.jp/>）でも随時公開中です。こちらも併せてご活用ください。

◆大会全 12 試合 LIVE 動画配信

カレッジ日本代表の試合を含めた今大会全 10 試合の模様は、大会を主管する大会 HP 内（<http://www.uppsala2014.com/se/results>）において、随時 LIVE 動画を配信中※英語です。



LB コグラン・ケビン
早稲田大学



中国ラインとの対戦



RB 高木 棲
京都大学
中国戦・スウェーデン戦
MVP 受賞



GAME REPORT

【第3試合】

ースウェーデンを 57 対 0 で下して 3 連勝 -

現地時間 5 月 8 日 (木) ※日本時間 5 月 9 日 (金)、スウェーデン王国ウプサラ市のオスタエンゲン IP で開催されている『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表がスウェーデン代表と対戦。57 対 0 のスコアで勝利し、3 連勝を飾りました。

なお、今大会の主催 FISU が選出したこの試合のカレッジ日本代表ゲーム MVP には、ラン 10 回、143 ヤード、1TD と大活躍した RB 高木 稜 (京都大学) が中国戦に続き 2 試合連続で選出されました。

現地時間 5 月 8 日 (木) 18 時 30 分 キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	24	21	0	12	57
スウェーデン代表	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

レシーブから始まった日本代表は、最初のドライブを敵陣 49 ヤードからスタート。5 つのランプレイでゴール前 12 ヤード進んだが、ここは攻めきれず。K 有輪 七海 (日本大学) の 30 ヤードフィールドゴールで 3 点を先制する。続くスウェーデンの攻撃をスリーアンドアウトで止めた日本は、自陣 41 ヤードから攻撃を開始。RB 高木 稜 (京都大学) が 22 ヤードランでファーストダウンを更新すると、RB 梅原 駿 (関西大学) の 2 ヤードランを挟み、再び RB 高木がボールキャリー。中国戦でゲーム MVP を受賞したランナーは 35 ヤードを走りタッチダウン。日本代表は 9 対 0 とする。

日本代表は、再びスウェーデンのオフェンスを止めて攻撃権を獲得。敵陣 30 ヤードから始まったドライブでは、RB 高木の 24 ヤードランでゴール前 6 ヤードまで進むと、2 つのランプレイを挟んで、最後は QB 石内 卓也 (関西大学) から TE 西脇 悅志 (日本大学) へ 4 ヤードのタッチダウンパスが通り、17 対 0 とリードを広げる。勢いに乗る日本代表は、第 1Q 残り 1 分 14 秒、自陣 20 ヤードから始まった攻撃で、RB 高木が 2 つのランプレイで 12 ヤードを進めると、RB 梅原が 68 ヤードのタッチダウンランでさらにリードを広げる。第 1Q 終了間際のキックオフでファンブルリカバーして再び攻撃権を得た日本代表。敵陣 23 ヤードから始まったこの好機で、ランで着実にゴール前 10 ヤードまで前進。サードダウン 9 ヤードの場面で最後は RB 小形 亮介 (明治大学) がエンドゾーンへ駆け込み加点。その後も QB 荒木 裕一朗 (立命館大学) から WR 前田 真郷 (関西大学) への 43 ヤードタッチダウンパス、QB 岸村 恭吾 (関西大学) から WR 木下 統之 (関西大学) への 44 ヤードタッチダウンパスで追加点を奪い、45 対 0 で前半を折り返す。

第 3Q を無得点だった日本代表は、第 4Q 残り 9 分 50 秒に RB 小形が 5 ヤードタッチダウンラン、試合終了間際にも QB 荒木から WR 鈴木 恵多 (立命館大学) への 4 ヤードタッチダウンパスが通り試合に終止符を打った。日本代表は、パスで 143 ヤード、ランで 253 ヤードを稼ぎトータルでは 3 試合で最多の 396 ヤードを記録した。

主なスタッツ

得点経過				
1st	09:29	JPN	3-0 有輪 七海 30 yd field goal	
	06:48	JPN	9-0 高木 棱 35 yd run (有輪 七海 kick blockd)	
	03:10	JPN	17-0 西脇 悅志 4 yd pass from 石内 卓也(水野 悠司 pass from 石内 卓也)	
	00:05	JPN	24-0 梅原 駿 68 yd run (有輪 七海 kick)	
2nd	10:48	JPN	30-0 小形 亮介 10 yd run (有輪 七海 kick blockd)	
	09:31	JPN	37-0 前田 真郷 43 yd pass from 荒木 裕一朗(前田 真郷 M kick)	
	03:13	JPN	45-0 木下 統之 44 yd pass from 岸村 恭吾(岸村 恭吾 rush)	
4th	09:50	JPN	51-0 小形 亮介 5 yd run (荒木 裕一朗 pass failed)	
	00:00	JPN	57-0 鈴木 恵多 4 yd pass from 荒木 裕一朗(荒木 裕一朗 rush failed)	

日本	チーム成績	スウェーデン
396	オフェンス総獲得ヤード数	0
143	パス総獲得ヤード数	13
253	ラン総獲得ヤード数	-13
16	ファーストダウン回数	1
0	ペナルティ回数／喪失ヤード数	1
18:36	ボール支配時間	29:24

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
荒木 裕一朗 (立命館)	7/13	95	2	0	1
岸村 恭吾 (関西大)	1/3	44	1	2	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
高木 棱 (京都大)	10	143	1	35	14.3
梅原 駿 (関西大)	2	70	1	68	35.0
小形 亮介 (明治大)	4	21	2	5.2	10
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
鈴木 恵多 (立命館)	3	17	1		7
木下 統之 (関西大)	2	49	1		44
前田 真郷 (関西大)	1	43	1		43
西脇 悅志 (日本大)	1	4	1		4
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターチェプト	
岩本 卓也 (日本大)	3	0	1	0	
神津 大地 (Palomar)	3	0	0	0	
湯浅 充 (国士館)	2.5	1	1	0	

■ フィンランド戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

カレッジ日本代表 水野 彌一監督（追手門学院アメリカンフットボール部総監督）

少しは警戒していたが、ディフェンスが非常に頑張ってくれました。だけどオフェンスに関して言えば、パスがやや強引だった。今日のような出来だとメキシコにはやられるかもしれない。これまでの3試合のようにランプレイだけでは無理なので、どうしてもパスを使う必要が出てくる。もう少しパッシングゲームを上手くやる課題が今日の試合で出てきた。この2日間の練習とミーティングの中でオフェンスコーチが修正してくれると思う。パッシングゲームの課題を克服できるかがメキシコ戦のカギとなる。

カレッジ日本代表 RB 高木 稜（京都大学）

2回も受賞できるとは思いませんでした。特に今日のスウェーデン戦は、ディフェンスが頑張ってくれたから勝てたと思うので、受賞は信じられない気持ちです。自分の実力で走ったというよりも、前回の試合と同様にオフェンスラインの動きだったり、レシーバーのブロックが秀逸でものすごく走りやすかったです。彼らの背中を見て走るだけでした。

— ご案内 —

◆カレッジ日本代表チーム報道用写真

日本アメリカンフットボール協会では、『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』に参戦中のカレッジ日本代表チームの試合や、現地スウェーデン王国ウプサラ市での活動の様子の写真を随時ご用意しております。報道用写真として貸し出しをご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

また、現地レポートや写真は、日本代表チーム特設ページ（<http://japan.americanfootball.jp/>）でも随時公開中です。こちらも併せてご活用ください。

◆大会全12試合 LIVE 動画配信

カレッジ日本代表の試合を含めた今大会全10試合の模様は、大会を主管する大会HP内（<http://www.uppsala2014.com/se/results>）において、随時LIVE動画を配信中※英語です。



QB 荒木 裕一朗
立命館大学
メキシコ戦 MVP 受賞



RB 梅原 駿
関西大学



日本代表守備陣
DB 大森 優斗
関西学院大学
LB 武田 元輝
立命館大



GAME REPORT

【第4試合】

—メキシコに6対14で惜敗も世界2位—

現地時間5月11日(日)※日本時間同日、スウェーデン王国ウプサラ市のオスタエンゲンIPで開催されている『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』が行われ、カレッジ日本代表がメキシコ代表と対戦。6対14のスコアで敗れ、通算3勝1敗の成績で全日程を終了しました。

この結果、カレッジ日本代表は、2位となりました。なお、4戦全勝のメキシコが初代の大学チャンピオンに輝き、3位スウェーデン(2勝2敗)、4位フィンランド(1勝3敗)、5位中国(0勝4敗)という結果になりました。

今大会の主催FISUが選出したこの試合のカレッジ日本代表チームMVPには、パス16回投げ9回成功、109ヤードを記録したQB荒木 裕一朗(立命館大学)が選ばれました。

現地時間5月11日(日) 16時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	0	6	0	6
メキシコ代表	0	7	0	7	14

ゲームサマリー

コイン投でキックを選択した日本代表は、ディフェンスからスタート。ファーストダウンを1回更新されるが、サードダウン19ヤードの場面で、DL高橋 倭太(立命館大学)がファンブルを誘発して、自らリカバーして攻撃権を奪取する。敵陣32ヤードから始まった日本代表の攻撃は、QB石内 順也(関西大学)が、WR頓花 達也(立命館大学)へ18ヤードのパスを通すが、WR頓花が相手守備をジャンプで交わすも着地の際にファンブル。攻撃権を失ってしまう。その後、一進一退の攻防が続き、第1Qは両チーム無得点のまま終了する。

試合が動いたのは第2Q。メキシコが自陣20ヤードから始めた攻撃で、日本代表はサードダウン21ヤードの場面、57ヤードのランを許してしまう。これで一気に自陣34ヤードまで攻め込まれた日本代表は、12ヤードパスと反則でゴール前10ヤードまで進まれると、第2Q残り8分23秒に10ヤードタッチダウンランを許してしまう。7点のビハインドを負った日本代表は、その後の3度の攻撃権も得点に結びつけることができず、前半を0対7で折り返す。

後半にレシーブからスタートした日本代表は最初のドライブで、井上 周(立命館大学)、高口 和起(日本大学)らRB陣のラン攻撃を軸にQB荒木 裕一朗(立命館大学)のパスも絡め敵陣まで侵入。すると、第3Q残り6分12秒、サードダウンゴールのシチュエーションでWR頓花が2ヤードタッチダウンランを決める。しかし、その後のエクストラボイントを外してしまい、6対7で同点には追いつけず。試合はメキシコリードのまま、勝負の第4Qに突入する。第3Qから続いた相手ドライブで自陣24ヤードまで攻め込まれた日本代表。しかし、相手のフィールドゴール機会にDB石井 悠貴(立命館大学)がこれをブロックして、相手の追加点を阻む。直後の日本代表の攻撃は敵陣42ヤードまで進むも攻めきれず。時間だけが過ぎていく。すると、試合時間残り4分48秒、メキシコは、自陣40ヤードから始まった攻撃で、2つのランで日本陣内45ヤードまで前進。ここで日本代表は、セカンドダウン10ヤードの場面で45ヤードランを許すと、最後は3ヤードタッチダウンランを許してしまう。これで得点は6対14。

最後の望みをかけた日本代表のドライブは試合時間残り1分25秒、自陣9ヤードから開始。QB荒木の21ヤードパス、10ヤードラン、27ヤードパス、3ヤードパス、10ヤードパスで敵陣20ヤードまで前進。この時点で残り9秒。QB荒木はRB梅原 駿へのパスを狙うが失敗。試合時間残り3秒、QB荒木は相手のラッシュをかわして、エンドゾーン内のWR頓花へパス。WR頓花はパスキャッチしたようにも見えたが、判定は無情にもインコンプリート。試合終了となった。

主なスタッツ

得点経過

2Q	08:23	MEX	0-7 Lopez Silva A 10 yd run (Ruvalcaba Tor F kick)
3rd	06:12	JPN	6-7 頇花達也 2 yd run (Shintaro S kick failed)
4th	01:30	MEX	6-14 Lopez Silva A 3 yd run (Ruvalcaba Tor F kick)

日本	チーム成績	メキシコ
262	オフェンス総獲得ヤード数	291
168	パス総獲得ヤード数	82
94	ラン総獲得ヤード数	209
13	ファーストダウン回数	14
2	ペナルティ回数	1
27:05	ボール支配時間	20:55

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベプト	被サック
荒木 裕一朗（立命館）	9/16	109	0	0	0
石内 卓也（関西大）	4/7	52	0	0	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
井上 周（立命館）	10	64	0	6.0	22
高口 和起（日本大）	7	25	0	3.6	7
梅原 駿（関西大）	2	2	0	0.5	2
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
頓花達也（立命館）	4	66	1		21
高崎 慎（関西大）	3	17	0		7
水野 悠司（日本大）	2	27	0		24
前田 真郷（関西大）	1	27	0		27
梅本 裕之（関学大）	1	13	0		13
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターベプト	
大貫 曜（立命館）	4	0	0	0	
コグラン ケビン（早稲田）	4	0	1	0	
太田 恵介（立命館）	3	0	0	0	
高橋 伶太（立命館）	4	0	1	0	
林 直輝（関西大）	3	0	0	0	

■ メキシコ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

カレッジ日本代表 水野 彌一監督（追手門学院アメリカンフットボール部総監督）

今日はメキシコを褒めるべき。ゲームプランが良かった。選手の持ち味をよく出していた。

カレッジ日本代表 QB 荒木 裕一朗（立命館大学）

自分の出来は悪くなかったと思いますけど、結果として得点につながりませんでした。もっと決めきれるところがあったと思います。大会自体すごく楽しかったです。（自身も日本代表として参加した）U-19で勝ったメキシコ相手に負けたのはすごい悔しかったですけど、まだまだ上がいることが分かりました。再び世界大会を目指すモチベーションになりました。

カレッジ日本代表 主将 OL 服部 真明（立命館大学）

（今日のメキシコ戦について）OLとしては前半上手くいってなかったけど、後半はランも出始めて上手く機能していました。勝てるとは思ったけど、結果がすべてです。

— ご案内 —

◆カレッジ日本代表チーム報道用写真

日本アメリカンフットボール協会では、『第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会』に参戦中のカレッジ日本代表チームの試合や、現地スウェーデン王国ウプサラ市での活動の様子の写真を随時ご用意しております。報道用写真として貸し出しをご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

また、現地レポートや写真は、日本代表チーム特設ページ（<http://japan.americanfootball.jp/>）でも随時公開中です。こちらも併せてご活用ください。

◆大会全12試合 LIVE 動画配信

カレッジ日本代表の試合を含めた今大会全10試合の模様は、大会を主管する大会HP内（<http://www.uppsala2014.com/se/results>）において、随時LIVE動画を配信中※英語です。



体格に勝るメキシコ
ラインとの対戦



P/K 佐伯 真太郎
立命館大学



QB 岸村 恭吾
関西大学

第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会
日本代表選手 66 名 コーチ・スタッフ 25 名

OFFENSE

Pos		在籍大学	氏名	身長	体重	学年
OL	74	関西学院大学	上沢 一陽	185	118	4
OL	79	関西学院大学	友國 詩	187	110	4
OL	77	立命館大学	坂口 裕	190	130	4
OL	50	立命館大学	柴田 純平	179	122	4
OL	56	立命館大学	服部 真明	179	120	4
OL	57	関西大学	阪口 友章	183	116	4
OL	71	立教大学	山形 明弘	184	123	4
OL	78	早稲田大学	中村 洋介	185	123	4
OL	66	日本大学	都井 健太郎	179	105	4
TE	8	日本大学	西脇 悟志	180	105	4
TE	89	日本大学	水野 悠司	188	104	4
TE	82	関西大学	吉田 一貴	180	94	4
OL/TE	60	関西大学	山下 公平	181	110	3
FB	49	関西学院大学	梶原 隆平	173	110	4
QB	12	立命館大学	荒木 裕一朗	185	95	4
QB	15	京都大学	小原 祐也	180.2	80	4
QB	10	関西大学	岸村 耕吾	178	83	3
QB	18	関西大学	石内 卓也	180	85	3
RB	30	明治大学	小形 亮介	165	70	4
RB	20	日本大学	高口 和起	176	92	3
RB	20	京都大学	高木 稜	165	74	4
RB	27	京都大学	岡部 朋也	175	82	4
RB	28	立命館大学	井上 周	171	73	4
RB	34	関西大学	梅原 駿	171	75	4
WR	81	日本大学	佐伯 龍之介	175	78	4
WR	29	日本大学	岩松 慶将	175	88	3
WR	25	日本大学	西村 有斗	171	73	3
WR	19	立命館大学	鈴木 恵多	171	73	4
WR	11	立命館大学	頓花 達也	181	82	4
WR	9	関西学院大学	梅本 裕之	179	74	4
WR	7	関西大学	高崎 慎	182	80	4
WR	1	関西大学	前田 真郷	180	88	4
WR	88	関西大学	木下 統之	170	75	4
WR	21	京都大学	上廣 淳史	170.5	68	4

DEFENSE / SPECIALIST

Pos		在籍大学	氏名	身長	体重	学年
DL	91	関西学院大学	池永 健人	183	97	4
DL	90	関西学院大学	梶原 誠人	186	106	4
DL	22	立命館大学	神山 恭祐	171	112	4
DL	55	立命館大学	武知 現大	176	105	4
DL	99	立命館大学	高橋 伶太	185	100	4
DL	98	関西大学	清家 拓也	178	132	4
DL	92	関西大学	藤谷 雄飛	180	102	3
DL	94	京都大学	柴田 大地	178	108	4
DL	59	京都大学	富田 翔也	180	103	4
DL	93	中央大学	甲斐 雄高	184	93	3
DL	96	國士館大学	湯浅 充	183	123	4
LB	44	立命館大学	太田 恵介	174	88	4
LB	2	立命館大学	武田 元輝	177	83	4
LB	47	関西大学	林 直輝	178	81	4
LB	13	日本大学	岩本 卓也	180	85	3
LB	5	早稲田大学	コグラン ケビン	183	92	3
LB	54	早稲田大学	加藤 樹	177	83	2
DB	37	関西学院大学	鳥内 將希	176	75	4
DB	14	関西学院大学	大森 優斗	176	71	4
DB	17	立命館大学	北村 優	176	74	4
DB	24	立命館大学	大貫 曜	179	82	4
DB	35	立命館大学	石井 悠貴	173	73	4
DB	23	立命館大学	脇 圭佑	163	75	4
DB	24	立命館大学	大関 翔太	181	83	4
DB	40	関西大学	中谷 祥吾	181	90	4
DB	4	日本大学	下水流 裕太	166	73	3
DB	32	法政大学	宮川 周平	180	82	3
DB	33	Palomar Community College	神津 大地	178	74	4
DB	36	早稲田大学	末吉 裕一	170	80	4
SP	16	立命館大学	佐伯 真太郎	182	80	4
SP	6	日本大学	有輪 七海	172	75	3
SP	85	近畿大学	荒木 勇人	160	80	4

COACH & STAFF

日本選手団 団長	平井 英嗣	日本学生アメリカンフットボール協会
監督	水野 強一	追手門学院
コーチ	大村 和輝	関西学院大学
コーチ	板井 征人	関西大学
コーチ	市瀬 一	立教大学
コーチ	池上 祐二	立命館大学
コーチ	武田 真一	神戸大学
コーチ	森 琢	日本大学
コーチ	時本 昌樹	近畿大学
アシスタントコーチ	力野 邦人	ハリケーンズ
アシスタントコーチ	中村 敏英	オービック

Chef De Mission	山田 晋三	JAFA
General Manager	松浦 雅彦	関西大学
チームドクター	月村 泰規	北里研究所病院スポーツ整形外科
アスレティックトレーナー	吉永 孝徳	オービック
アスレティックトレーナー	渡邊 真一	関西学院大学
アスレティックトレーナー	曾根 伸明	東京ガス
学生トレーナー	松田 宗大	早稲田大学
学生トレーナー	毛利 文彌	関西学院大学
マネージャー	吉田 元氣	立教大学
マネージャー	山本 明音	関西大学
マネージャー	江夏 碧	立教大学
マネージャー	刀根 麻美	慶應義塾大学

第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会 大会概要



AMERICAN FOOTBALL
2014

Uppsala Sweden
1st World University
Championship



大会名称【日本語表記】 第1回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会
【英語表記】 1st World University Championship American Football

主催 国際大学スポーツ連盟
(FISU : Fédération Internationale du Sport Universitaire)

日程 2014年4月24日(木)～5月13日(火)
※時差:日本時間-8時間

会場 Österängens IP(スウェーデン王国ウプサラ市)

出場国 5カ国
スウェーデン(開催国)
フィンランド
メキシコ
中国
日本

選手資格 ①日本国籍を有する者 ②大学生と大学院生、および卒業後1年以内の者、③28歳以下であること

チーム編成 各国最大68名の選手の中から1試合につき45名の選手でチームを編成

試合形式 NCAAルール、12分/Q 計時

大会日程	5月2日(金)	15:00	中国	0-47	フィンランド
	5月2日(金)	18:30	スウェーデン	0-62	メキシコ
	5月4日(日)	13:00	フィンランド	0-84	日本
	5月4日(日)	17:00	スウェーデン	0-41	中国
	5月6日(火)	15:00	メキシコ	53-0	フィンランド
	5月6日(火)	18:30	中国	0-54	日本
	5月8日(木)	18:30	日本	57-0	スウェーデン
	5月9日(金)	17:00	メキシコ	55-0	中国
	5月10日(土)	17:00	スウェーデン	6-28	フィンランド
	5月11日(日)	17:00	日本	6-14	メキシコ

最終順位	全体結果	
	【1位】メキシコ	4勝0敗 得点 176 失点 6
	【2位】日本	3勝1敗 得点 202 失点 14
	【3位】スウェーデン	2勝2敗 得点 69 失点 125
	【4位】フィンランド	1勝3敗 得点 53 失点 165
	【5位】中国	0勝4敗 得点 0 失点 197



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会

遠征日程 【遠征】 4月24日（木）～【帰国】 5月13日（火）

渡航便（エミレーツ航空）

4月24日（木） 22:00 成田発 EK319便

4月24日（木） 23:40 関空発 EK317便

4月25日（金） 5:10 ドバイ着

7:15 ドバイ発 EK157便

12:00 スウェーデン アーランダ空港着

帰国便（エミレーツ航空）

5月12日（月） 13:55 ウェーデン アーランダ空港発 EK318便

5月13日（火） 22:25 ドバイ着

2:50 ドバイ発 EK318便

3:00 ドバイ発 EK316便

17:25 成田着

17:10 関空着

国内最終練習 4月5日（土） 11:00～15:00 合同練習

於： 関西学院大学第3フィールド

関連ウェブサイト

大会公式サイト（英語） <http://www.uppsala2014.com/>

日本代表オフィシャルサイト <http://japan.americanfootball.jp/>

日本代表公式 Facebook ページ <https://www.facebook.com/AFJNT>

活動写真サイト <https://www.flickr.com/photos/119552036@N06/sets>